

# あいち病害虫情報 最新情報

平成30年 5月15日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## ムギ類の病害

5月上旬の調査で、赤かび病の発生は過去10年と比較して3番目に多くなっています。一方、コムギうどんこ病は調査ほ場での発生は確認されず、赤さび病の発生も少ない状況です。

名古屋地方气象台5月10日発表の1か月予報によれば、暖かい空気に覆われるため気温は高く、天気は数日の周期で変わり、低気圧や前線の影響を受けやすいため降水量は平年並か多い見込みです。

赤かび病の第二次伝染が多くなると予想されます。詳細は本日発表の「ムギ類赤かび病情報第3号」を参照してください。

## 果樹の病害

降雨が続くと果樹の病害が発生しやすくなりますので、天気予報に留意して、適期防除を心がけましょう。

4月から現在までに、風を伴う降雨があったため、モモせん孔細菌病の増加が懸念されます。枝病斑は見つけ次第切除して適切に処分し、防除しましょう。

ナシ黒星病の発生量はやや多い状況です。特に、幼果期は感染しやすい時期なので、伝染源になる発病葉や発病果は、見つけ次第除去するとともに、防除を実施しましょう。

ブドウ黒とう病は、4月下旬の調査で一部のほ場において発生を確認しており、平年に比べて早い状況です。梅雨明けまで降雨のたびに二次伝染し、発病が増加します。発生を確認したほ場では発病部位を適切に除去するとともに、薬剤で防除しましょう。また、前年発生したほ場では、防除を徹底しましょう。

ブドウ晩腐病は、開花直前から防除適期に入ります。重点防除時期を逃さないようにしましょう。

4月から現在までにまとまった降雨があったため、ブドウべと病の発生が懸念されます。発病部位を適切に除去するとともに、薬剤で防除しましょう。

## 果樹のカメムシ類に注意！

新都市に設置したフェロモントラップにおいて、現在までの誘殺数が、平年に比べやや多い状況です。今冬に行ったチャバネアオカメムシの越冬密度がやや多い状況だったので、6月末までの本種の果樹園への飛来がやや多くなると予測します。特に、夜間の気温が20℃以上になるこれからの時期は、行動が活発になります。ほ場での飛来状況に注意し、防除を実施しましょう。平成30年5月1日発表の「果樹カメムシ類情報第1号」及び4月3日発表の「平成30年度病害虫発生予察注意報第1号」も参考にしてください。

## 果樹のカイガラムシ類

果樹のカイガラムシ類の防除適期は第1世代1齢幼虫発生ピークです。ナシマルカイガラムシ及びフジコナカイガラムシの有効積算温度を利用した第1世代1齢幼虫の発生ピーク予測日は、表1及び2のとおりです。

表1 ナシマルカイガラムシの第1世代1齢幼虫発生ピーク予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	新城	豊橋	伊良湖
本年	5/28	5/27	5/22	5/22	5/24	5/27	5/24	5/29	5/25	5/26
前年	6/1	6/2	5/29	5/29	5/30	6/2	6/1	6/6	6/1	5/31
前年差	4日早	6日早	7日早	7日早	6日早	6日早	8日早	8日早	7日早	5日早

表2 フジコナカイガラムシの第1世代1齢幼虫発生ピーク予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	新城	豊橋	伊良湖
本年	6/2	6/3	5/27	5/27	6/1	6/2	5/31	6/3	5/31	6/2
前年	6/7	6/8	6/2	6/4	6/8	6/8	6/6	6/11	6/7	6/6
前年差	5日早	5日早	6日早	8日早	7日早	6日早	6日早	8日早	7日早	4日早

注) 表1及び2ともアメダス平均気温から予測。5月14日までは本年実測値を、それ以降は平年値(大府、豊橋は前年値)を用いて計算。前年は、前年気温の実測値を用いて計算。

平成30年5月1日に発表した「ナシマルカイガラムシ情報第1号」及び「フジコナカイガラムシ情報第1号」に記載した予測日より1～2日遅くなっている地点があります。防除適期を逃さないようにしましょう。

## キクの病害虫

露地ギクは定植時期に入っています。定植用苗は、白さび病などの感染がないものを用いましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」(アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>)を参照してください。

- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 防除の際は、周辺作物に飛散しないよう注意しましょう。
  - ・ 防除面積や用途に応じた防除器具、散布ノズルを選択しましょう。
  - ・ 散布するときは朝夕など風の影響が少ない時間を選びましょう。
  - ・ 風向きに注意し、他の作物の方向に散布しないように作業しましょう。
  - ・ 飛散の恐れがあるときは、近接ほ場の生産者に連絡しておきましょう。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室  
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820